

# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) N.U

所属 (School) 現代システム科学域

学年 (Grade) 1年

留学先 (Name of overseas institution)

マレーシア工科大学

留学期間 (study abroad period)

2018年2月18日~3月5日 (16日間)

記入日 (Date) 2018年3月20日

## 留学レポート Study Abroad Report

私にとって今回の留学は初めての留学でした。もともと私は大学に入っても留学するつもりはありませんでしたが、この留学は2週間という短期間であること、渡航先が東南アジアであるために費用の負担が少ないということから気軽に留学を経験できると思い、行くことを決めました。

### 1. 留学中の暮らし

平日

06:30 起床

08:30 授業

16:00 授業終了

16:30 フリータイム バディと遊ぶ

23:00 就寝

祝日

バディと出かける



学生寮



授業風景

### 2. 食事

基本的にマレーシアの食べ物は私たちの日本人にとって「とても辛い」「とても甘い」「とても塩辛い」のどれかで、最初は驚きましたが、次第に慣れ、現地の味に馴染んでいきました。次にマレーシアで食べて欲しい食べ物をいくつか紹介します。

#### ・ Roti bomb (ロティ ボム)

デニッシュパンのような甘いパン

ロティにはたくさん種類があり、他にもプレーン、卵、魚、チーズ、ミロなどの味がありました。

#### ・ バナナケーキ

これはマレーシア特有のものではないかもしれませんが、

マレーシアのバナナケーキはとても美味しくて、

私は毎日食べていました (笑)

#### ・ Kuey tiaw kung fu

これは全然辛くなくてマレーシア料理にも関わらず、

日本食のような優しい味付けです。

麺がもちもちしており、野菜のあんかけがかかっています。



### 3. バディに関して

今回の留学では、一人一人にマレーシア工科大学の学生が日本人のバディとしてついてくれました。バディとは、日本人だけで受ける平日の授業時間以外に会って遊んだり、時には課題を手伝ってもらったりと、一緒に過ごしながらかommunicationをとることで自然に英語のスキルを身につけることが出来ました。友達と話す感覚で英語を話すことができるため、最初は英語話すこと自体に勇気がいり、バディと話すことにも緊張しましたが、何度も会話を重ねるうちにバディとの距離も縮まっていきました。バディとの関わりが英語を話す機会を増やしてくれたのでバディの存在はとても大きかったです。

#### バディとの思い出

- ・ Cultural Shearing Session (マレーシア)  
マレーシアの文化をマレーシアのバディの人に紹介してもらい、鑑賞や体験を通してマレーシア文化に触れました。また、マレーシアの伝統的な衣装を着ました。



- ・ Cultural Shearing Session (日本)  
私たちが前もって準備した日本の遊びや伝統工芸をマレーシアの人々に紹介しました。準備が功を奏し、皆が楽しめたので良かったです。



大学内で乗馬体験



大学の丘の上に景色を見に



放課後にバスケ

#### まとめ

今回の留学で得たことは、英語を使ってコミュニケーションをとる勇気です。難しい単語や文構造を駆使しなくても、「聞き取りたい」「伝えたい」という気持ちがあれば、話すことも聞き取ることも可能になるということを知りました。もちろん始めは、慣れない環境で英語を話すことができるのかという不安でいっぱいでした。しかし、留学を通して英語を話さなければならない環境に身を置くことで、何とかして話そうと言う姿勢になり、最終的には英語を話すことの楽しさに気付きました。確かに英語の勉強は留学しなくても日本で出来ますが、留学の良さは、勉強する際のモチベーションが上がること、海外に友達が出来ることなど、日本で経験出来ないことがたくさんあったと感じました。これからの課題は、もっと英語を話すことに慣れて、幅広く英語を使えるようにすること、英語の発音を磨くことなど、まだまだ基礎的なところからですが、今回の経験を生かし日々の勉強を頑張りたいと思います。